

2026

8-9月

はしかけニューズレター

2026年度 第3号 通巻190号

2026年(令和8年)8月14日発行



編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習・交流係 (はしかけ担当職員: 島本・中村・太尾田)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp/>

～ 目 次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 淡海スケッチの会 (3) 近江はたおり探検隊
(4) 大津の岩石調査隊 (5) 温故写新 (6) 暮らしをつづる会 (7) 古琵琶湖発掘調査隊 (8) 里山の会
(9) 植物観察の会 (10) たんさいぼうの会 (11) 田んぼの生きもの調査グループ
(12) ちこあそ(ちっちゃなこどもの自然あそび) (13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会 (14) びわたん
(15) ほねほねくらぶ (16) 緑のくすり箱 (17) 虫架け (18) 森人 (19) 琵琶湖梁山泊 (20) サロン de 湖流
(21) 水と暮らし研究会 (22) 内湖を知ろう会

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月～9月)

4. 学芸職員・特別研究員による研究セミナー(8月～9月)

5. 生活実験工房からのお知らせ

6. その他の事項

会員数 ... 420人

グループ数 22グループ

(2026年 8月14日現在)

1. 事務局からのお知らせ

8月も後半に入り、暦の上では秋を迎えましたが、まだまだ厳しい暑さが続いています。皆様はいかがお過ごしでしょうか。夏バテや熱中症にならないよう、体調管理と暑さ対策をしっかり行い、残暑を元気に乗り越えましょう。

7・8月は、琵琶湖博物館では昆虫採集や夜の生きもの観察会、湖探検など、夏休みならではのイベントが盛りだくさんです。はしかけの各グループでも、暑さに負けずさまざまな活動に取り組まれています。ぜひご覧いただき、残暑を吹き飛ばすひとときになれば幸いです。

それでは、以下、事務局からのお知らせです。

■びわ博フェス 2026、11月14日(土)、15日(日)に開催します！

びわ博フェス 2026 を、11月14日(土)、15日(日)に開催します。

今年も、はしかけグループの皆様には様々なワークショップを開催いただきます。ご協力ありがとうございます。

毎年恒例になってきたものも、新しくチャレンジされるものも、あると思います。フェスを通じた交流の中で、はしかけ会員の皆さんにとっても出会いや発見があることを願っています。

はしかけ会員になったけれど、はしかけグループにまだ入っていないという方は、メンバーと交流する絶好のチャンスです。ぜひご来館ください。

■びわ博フェス、子ども若者研究発表交流会の参加者を募集中です！

びわ博フェスに併せて、「びわ博子ども若者研究発表交流会」を開催いたします。

琵琶湖地域をフィールドに調査・研究を進める中学生・高校生を中心とした子ども・若者が、研究成果を発表するとともに、他の学生、研究者等と意見交換し、交流を深める研究交流会です。自然科学のみでなく、社会科学、人文科学分野も対象とします。これを機に、皆様が取り組んでいるご研究をさらに深めていただければと思います。

詳細は、QRコードから、リンク先の「びわ博子ども若者研究発表交流会 発表者募集のご案内」をよくお読みください。

はしかけやフィールドレポーター会員以外のご応募も可能です。



■次回ははしかけ登録講座のご案内

はしかけ登録講座を以下の日程で、オンラインおよび対面で開催する予定です。お近くに、はしかけ活動に興味をお持ちの方がいらっしゃいましたら、ぜひお知らせください。

オンライン講座：2026年9月6日(日)～2026年9月20日(日)のうち任意の時間(1時間半程度の動画を受講)

対面講座：2026年10月10日(土) 13:30～16:00 (於 琵琶湖博物館セミナー室)

※詳細は琵琶湖博物館ホームページ「イベント情報(セミナー)」でご確認ください⇒ <https://www.biawahaku.jp/event/seminar/>

■琵琶湖博物館開館30周年記念、シーボルト江戸参府200周年記念企画展示「博物館はタイムマシンー魚類学者がみた琵琶湖ー」(第34回企画展示)のお知らせ

去る7月18日に、第34回企画展示のオープニングセレモニーが開催されました。皆さんはもうご覧になりましたでしょうか？

・ドイツ人の医師・博物学者シーボルトが持ち帰り、学名付けに使われた琵琶湖の魚など重要な標本が多数来日。

・国の特別天然記念物トキの剥製(タイプ標本)がナチュラリス生物多様性センター(オランダ)より来日。

・標本を遺すことの意義や重要性、過去の標本から分かる新事実を展示解説。

・琵琶湖の魚がどのように調べられてきたか、未来に向けてどのようなものを遺していけばよいのか、江戸時代から現代、そして未来に向けて思いを巡らせる展示となっています。

期間は11月23日(月)までで、琵琶湖博物館企画展示室にて開催します。企画展示の観覧には、別途観覧料金が必要になります。ぜひ、ご観覧ください。

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 79名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

【活動報告】

■6月21日(日) 第198回定例調査 場所: 石田川 参加者: 21名

前夜の雨が激しかったので、中止になる恐れがあると覚悟していたのですが、一夜明けると薄曇り時々晴れの絶好の調査日和。また、雨のせいで増水・濁流の心配もありましたが、見事に清流となっていました。

参加者21名を3班に分け、石田川の上流から下流までと付近の水路を調査しました。たも網で捕まえた魚は、ヨシノボリ類、ウキゴリ、ドンコ、カジカ、ウツセミカジカ、スナヤツメ類、アカザ、シマドジョウ類、タカハヤ、アブラハヤ、ウグイ、カワムツ、ビワヒガイ、投網でアユ、ハスでした。外来魚の報告がなかったのは、さすが湖西北部の川というところでしょうか。初参加の方も魚をゲットして、十分満足していただきました。

調査の後、石田川河口に設置された築(ヤナ)を見学しました。たくさんハスが狭いいけすで押し合いへし合いしており、跳ねて地面に飛び出して死んでいるものもあり、なんだかつらいものがありました。(文責: 石井千津)

■7月4日(土) 湖魚料理の体験会 場所: 琵琶湖博物館生活実験工房

参加者: 26名

恒例の湖魚料理の体験会を開催しました。用意された魚・エビは、ビワマス、イワトコナマズ、フナ類、ハス、アユ、ホンモロコ、テナガエビなど。ビワマスはマキノの中村水産、フナ類、テナガエビはびわ湖漁協の志那支所から購入したもの。他は採集したものです。主な調理方法は以下のとおり。

塩焼き: ビワマス、ハス、アユ

煮付け: フナ、イワトコナマズ、ビワマス

天ぷら・素揚げ: アユ、ホンモロコ、テナガエビ

そして今年の注目は、会員が釣って持参したマグロ(湖魚じゃないかな?)。カマ、胃袋、卵を持参頂き、塩焼き、湯引き、煮付けになりました。

次々に出来上がる料理を前にし、あちらこちらで魚談議にも花が咲き、いつもどおりの楽しい会でした。皆さんお疲れ様でした!

(文責: 中尾博行)



湖魚料理体験会用に採集したハスとアユ

■7月20日(日) 第199回定例調査 場所:思川 参加者:32名

酷暑の朝、日陰の無い集合場所になんと初参加5名を含む32名の会員が集合しました。そのうち20名(8組)が親子での参加でした。親子参加者中心の1班は徒歩で近くの思川に向かいましたが、川に降りるには無理のある、急で草ぼうぼうの所ばかりで、しばらくさまよっていたのですが、思川に合流する坊谷川に何とか降りられるところが見つかり、調査をしました。その場所は泥だらけでみんな泥々になりました。余りにも泥だらけになったので野洲川本流に移動し、澄んだきれいな水の中で調査を終えました。2、3、4班も思川・坊谷川の上下流に分かれて調査しました。

見つけた魚は、オイカワ、ヌマムツ、カワムツ、モツゴ、フナ類、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、ヨシノボリ類、オオクチバス、ブルーギル、カムルチーなどでした。また、魚以外ではアメリカザリガニが非常に多く、ミシシippアカミガメ、ヌマエビ類、コオイムシ、ミズカマキリなどが見られました。

日陰がなく、とにかく暑くてつらい調査でしたが、みんな楽しそうに川に向かって行き、さすがうおの会だなと嬉しくなりました。終了後もまだ魚を求めて川に向かった猛者もいたようです。(文責:水戸基博)

■今後の予定

8月の活動はお休みです。9月から定例調査を再開します。詳細は活動前にメールにてご連絡します。



(2) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■2026年6月28日(日) 琵琶湖博物館 参加者5名

オープンラボでスケッチ。

俳句部は博物館敷地で吟行句会をしました。

■2026年7月26日(日) 琵琶湖博物館 参加者4名

オープンラボでスケッチ。

俳句部は博物館敷地で吟行句会をしました。

【活動予定】

○2026年8月23日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。

活動時間 10時30分～(16時)

○2026年9月27日(日) 琵琶湖博物館

オープンラボや敷地内でスケッチや吟行を行い、午後は句会も予定しています。

活動時間 10時30分～(16時)

※持ち物/スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

博物館 de 俳句

6月28日 大鯰句会

木洩れ日に更に輝く花石榴	巳刻
夕凧やベンテンナマズという昔	敦代
雨あがる粗榥の葉と蜘蛛の囿と	桜子

7月26日 大鯰句会

水面にアオコの続く酷暑かな	稚鮎
はからずも左右にゆれる大鯰	敦代
半裂の昼の眠りに魚群るる	桜子





(3) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 11名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

<織姫の会>

■6月10日(水) 参加者:3名

前回卓上機の残り糸を織り上げてくれたので、機からはずして両端に房をつけました。

次回縮絨(しゅくじゅう)してみたいと思います。

■6月27日(土) 参加者:4名

台風が早めに通り過ぎたので、閉館にならず予定通りに作業しました。今回の作業は卓上機で織った毛糸の布を縮絨しました。縮絨とはウール 100 パーセントの布に中性洗剤と熱湯で揉んで縮ませる事です。目が詰まってフェルト化して、風合いがよくなりました。

■7月18日(土) 参加者:4名

竹の織り機を作り、びわ博フェスに向けて試作。タテ糸とヨコ糸に使う糸を試行錯誤。飽きずに早く織れる組合せを考えました。次はデザインです。



縮絨作業 洗剤とお湯で揉む



【活動予定】

<織姫の会>

■7月29日(水)、9月5日(土)、10月3日(土)、14日(水)、11月4日(水)、12月12日(土)
(8月はお休みします)

■「11月15日(日)びわ博フェス「竹の織機でキーホルダーを作ろう」

(注意:今後変更する可能性があります)

(文責:辻川智代)



(4) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:里口 保文

【活動報告】

■2026年6月の活動

○「大津の岩石調査隊」新隊長の決定と今後の予定の設定 参加者:8名

場所:琵琶湖博物館 実習室1

日時:6月14日13:30-16:00

1. 新隊長の決定:現隊長から辞任の希望と新隊長を決める必要があることを里口担当と中村さん宛てに提出。里口担当から隊員に向け、隊長希望者の募集を発して頂きました。
2. 新隊長の決定:6/14の本会議の冒頭で、里口担当から自薦、他薦ともないとの報告がありました。これを受け、新隊長には中村さんが経験、PCも堪能であること、立案も出来ること等から好ましいと梅澤が推薦しました。皆さんからも賛同を得、中村さんが新隊長に就任しました。中村さんからは皆さんのお力添えを得、当隊を発展させたいとの決意がありました。
3. 定例会議

(1)今年度は11/14(土)15(日)のびわ博フェスがあります。ポスターと、ワークショップに申し込みします。

[ポスター内容]

A.雪野山の野外調査とB.わくわく探検隊の事を中心にしたい。現地を知っている方や写真編集の得意な隊員の協力も得、作りたい。試案は9月に提案する。

[ワークショップ]:

野洲川で採取した岩石でクイズをして、時間があれば、標本箱を作ってもらおうという内容です。約30分を3回で、各回10名定員とします。

双方とも日程が決まり次第連絡します。隊員の皆さんにも是非、知恵とお力を提供いただき、楽しんでいただきたい。

(2)今後の活動内容がだいたい決まりました。

【活動予定】

[7月]

7/19(日) 琵琶湖博物館の実習室1：本件実施済。次回のNLで報告します。

勉強会 岩石の薄片を顕微鏡で観察

[8月]

日程未定 琵琶湖博物館

びわ博フェスのワークショップについての検討会

[9月]

9/22(火・祝日) 野外調査 栗東の鶏冠山

日程未定 野洲川の河原:ワークショップに使う岩石の採取

[10月]

日程は未定ですが平日 野外調査 近江八幡の沖島

[11月]

11/7(土) 大津の鹿跳溪谷周辺：他G主催の子供達と河原の岩石を見つけるイベントのお手伝い。

11/14(土)15(日):びわ博フェスに参加

[12月] 休止

[1月]

日程未定 琵琶湖博物館:岩石持ち寄り情報交換会と後半に新年度活動計画会議

[2月]

2/13 琵琶湖博物館 :わくわく探検隊 [岩石標本箱を作ろう]への協力

日程未定 地学研究発表会



(5) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員:金尾 滋史、加藤 秀雄

【活動報告】

■6月27日(土) メンバーの写真鑑賞会 参加者 6名

「温故写新」発足当時は、メンバーの撮った写真を見る会をよくしていましたが、最近はできておらず、久しぶりの鑑賞会となりました。お互いに日頃どんな写真を撮っているのか、どのような思いで撮っているのか、どのような視点や構図で撮っているのか等を知ることができたいい学びの場となりました。また、レンズの紹介等もあり興味深い話も聞くことができました。

鑑賞会は、来年2月にも予定しています。楽しみです。

■7月18日(土) 琵琶湖博物館企画展示の撮影会(記録写真) 参加者 6名

企画展示「博物館はタイムマシンー魚類学者がみた琵琶湖ー」オープンの日に合わせて、セレモニーおよび担当学芸員による展示解説の様子を記録撮影を行いました。

アトリウムは逆光になりがち、また展示室は薄暗いので、ただでさえ撮影の難しい場所です。加えて撮影禁止のところや多くのお客様を避けながらというのは、至難のわざ。しかし、だからこそ撮影技術の向上のためには良い修行の場なのです。今回もメンバーは各自工夫を凝らしながら、さまざまな角度でトライしました。さてさて、出来上がりはいかに？



(6) 暮らしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:大久保 実香

【活動報告】

これまでに聞きしたおはなしのまとめ作業を行っています。

【活動予定】

地域の人に話を聞いてまとめてみたい、自分史を書いてみたいなどのご関心がある方は、担当学芸員までご連絡ください。

(大久保)



(7) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 12名】

グループ担当職員: 半田 直人

■三重県服部川での発掘調査

日時: 5月31日(日) 13:00~16:00

場所: 服部川(三重県伊賀市)

三重県服部川で発掘調査を行いました。暑い日になると予想されましたが、幸い曇りで活動しやすい天気となり、皆さん、最後まで集中しつつも楽しく発掘調査を行うことが出来ました。調査では、咽頭歯の化石やイガタニシの化石、二枚貝の化石を発掘することができ、発掘調査の知識・スキルを磨くことができました。服部川は県外でなかなか行く機会がありませんが、今後も定期的に発掘調査を続けていきます。



はしかけ会員さんの咽頭歯化石のコレクションを見させていただきました



服部川での発掘調査

■咽頭歯化石の観察、同定作業

日時: 6月20日(土) 13:00~16:00

場所: 琵琶湖博物館実習室1

多賀町での発掘調査で発掘された未同定の咽頭歯化石の観察・同定作業を行いました。昨年度から、咽頭歯化石の観察・同定作業に取り組んでおり、最初は咽頭歯化石を見ても、何の仲間でどの部分の歯なのかわからない状態でしたが、粘り強く観察を行い、ある程度コイの仲間、フナの仲間の咽頭歯化石である、歯の順列は一番奥ではないかなど、一定話し合いができるようになりました。経験を積むことで確実にスキルアップできている実感があり、残りの咽頭歯化石の同定作業を進められるよう頑張っていきます。



咽頭歯化石の観察

【活動予定】

■7月20日(月・祝) 13:00~16:00

琵琶湖博物館実習室1

古脊椎動物学についての勉強会



(8) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 24名】

グループ担当職員: 奥田岬・島本多敬

【活動報告】

■6月1日(月) 潮干狩り

里山の会の歳時記に「潮干狩り」が明記されて久しくなります。

参加者は少なめで4名ですが、淡水育ちの里山の会が年一回の伊勢湾参り、御殿場浜で今年も楽しんできました

ここ数年は、護岸工事の影響(多分)で不漁続きだったマテ貝も、宮本さんが元気な姿を発見。俄然やる気をだして宮本さんはマテ君探しに、視野から消えていきました。自然界の調和は人の行いすべてを飲み込んで、何事もなかったようにただあるだけなのに、右往左往するのは人社会側ですね。人の時間軸とは速度も違う緩やかに。

ただ貝を探すだけではなく、参考資料を思い出しながら貝の生息状況をウオッチングしてみました。どんな貝がどのくらいの深さに潜んでいる(暮らしている)のかを探してみると、シオフキの群に遭遇して水管の長さや砂の深さの関係を探ることができました。

人のくらしの周りで続いている自然と人の関係、海の自然と人の関係でも生きのもののしづとさに気づかされた一日でした。年に一度の淡水育ちの外からの眼で、今年の潮干狩りウオッチングの報告です。(寺尾)

■6月13日(土) 夏の里山体験教室 下見 会員8名

野洲市大篠原にて夏の里山体験教室の下見を行いました。はしかけの森の入り口で、花が咲いている竹をみつけました。竹の花が咲くのはおよそ 60 年に一度といわれています。珍しいものを見つけて、会員・職員とも思わず観察していました。そのほか本番の日に向けて、昆虫観察ができる場所を歩いて探し回ったり、ハンモックが設置できる木をさがして設置の練習をしたりしました。(島本)



■6月21日(日) 夏の里山体験教室 本番 会員5名、一般参加者 10 名

前日までの悪天候で開催が危ぶまれましたが、当日は晴れて暑いぐらいの天候のもと、夏の里山体験教室を実施しました。風雨で倒れた竹木を事前に剪定し、会場を準備しました。

体験教室は、冒頭で熱中症・マダニ対策を学び、そのあと原っぱに出て昆虫観察！子どももおとなも網を持って、チョウやトンボ、カマキリなどを探し回りました。つかまえた生き物は昆虫に詳しい学芸員や地域の方に種類や見分け方を学びました。休憩のあとはハンモック体験。スタッフがレクチャーしながら、木陰でハンモックをつくりました。ハンモックに寝ころんで森を眺めたり自然の音を聞く体験は、参加されたみなさんに好評でした。(島本)



■7月11日(土) お楽しみ会「草餅づくり」&ライト版里山体験教室の打ち合わせ

会員6名

本来なら、春の里山体験教室で恒例の「山菜を食べる」ことが諸般の事情で中止となったあたりから、春の山菜ひいては里山の楽しさを堪能できないことに(食べてもないのに)消化不良状態が続いていました。そこでお楽しみ会として「ヨモギを摘む(保存しておく)」「苦さを味わう」「彩りを楽しむ」つまりは春の歳時記である(?)草餅を作ろうという企画を生活実験工房で行いました。

まずは、電気の力を借りて餅つき器で草餅作り。ヨモギは春に摘んで保全しておいたものです。そのままでも野の香り満載ですが、お好みで「小豆あん」「黒豆あん」「赤エンドウ豆」「きな粉」でアレンジして頂きました。

里山での活動は色々ですが、食べることから身近な楽しみ感が膨らんでいきます。近いうちに春の山菜をその場で「食せる日」の来ることを祈って、市販品の倍以上ヨモギの入った草餅はすべて持ち帰りました。



午後からは、8月30日に生活実験工房周辺で開催する「ライト版里山体験教室」の打ち合わせを行いました。(寺尾)

【今後の活動予定】

8月2日(日)「ライト版里山体験教室」打ち合わせ・下見

8月30日(日)「ライト版里山体験教室」本番

9月26日(日) ハンモック虫干し・道具整備



(9) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

今年は、6月の雨量が多く、梅雨らしい梅雨だった。関西地方は7月9日頃に梅雨明けしたが、東海地方は7月17日になって梅雨明け宣言が未だだ。蒸し暑いのに加え、7月10日頃からは、気温32~36℃越えの猛暑。野菜や果物づくり、山の植物や虫たちの生態はどうなっていくのだろうか。

【活動報告】

■6月7日(日)「お出かけ観察」 近江富士花緑公園 雨天のため中止 参加者0名

久しぶりに花緑公園へ行き、樹木の観察をするつもりだった。

ここに植えられているケンポナシやチャンチンは6月頃に花をつけるらしく、それらを一度見てみたい、と計画した。

また来年、行こう。

■7月5日(日)「野菜のDNAを取り出してみよう」 博物館実習室1 10:00~12:20 参加者6名

メンバーの一人が、ネットでこんなのを見たのでやってみよう、との発案で計画に取り入れた。サイトによって書かれていることが多少違っていたが、逆に「本当にこれらのやり方でできるのか」「乳鉢、ビーカー、ろ紙などの実験器具を使わなくても、家にあるものでできるのか」「どの野菜・果物がやりやすいのか」を試そうと考えた。

右記手書きノートは、ネット検索した際AIが編集した説明文を筆者(辻)が自分で描いたものである。

実験しながら気づいたこと、気を付けた点については、※として表記した。※1~4については、ノート外へ別記する。

【手順・準備物など】

〈※1〉

- ・冷凍するのは、細胞膜をこわすためか？ たしかに冷凍したほうが潰しやすい。
- ・「すり潰しすぎてもだめ」みたいなことが書かれていたが、なぜなのか？ どの程度が、「すり潰しすぎ」なのかは不明。
- ・バナナ、アボカド、タマネギは、ただただで簡単に潰せた。

〈※2〉

- ・食塩などの水溶液は、「10cc加える」と書いてあったが、潰した材料の粘り気やもとの水分量によって、加える水溶液の量を増やさないとろ過できなかった。



- ・バナナは、水溶液をかなり多く入れないと、ほとんどもろ過できなかった。
- ・すり潰した材料と水溶液がきちんと混じり合うように(「なじむ」と書いてあったが、浸るという意味か?)に「10分ほど置く」とあった。私はそんな時間の余裕がないので1分ほど手でもみ込んでろ過へ進めた。
- ・メンバーの一人は、きちんと10分なじませていた。
- ・バナナの液をろ過するのにかなりの時間がかかった。食塩などの水溶液をもっと入れた方がいいことが分かった。
- ・途中で触りすぎると、コーヒーフィルターの下が破れてしまうので、注意が必要だった。

〈※3〉

- ・エタノールの量は、「こし取った液の1～2倍」と書いてあったが、それでは多すぎた。せっかく静かになっていた液がどんどん舞い上がってしまった。静かに注ぎ入れるのには10～20ccで十分だった。

〈※4〉

- ・「割り箸でからめてとる」と書いてあったが、浮いているのを見た方が観察しやすかった。割り箸に付いてしまうと、一塊になってしまい、糸状であることがわからない。
- ・糸状に浮いたものを顕微鏡で見てみたら、四角い結晶の中に糸状の影が何本も見られた。四角い結晶しか見られないものもあった。この四角い結晶は、たぶん食塩。初めに入れた食塩水が冷えたエタノールを入れたことによって飽和量が減り、再結晶して現れたものだと考えられる。【結果】
- ・DNA(糸状のもの)が出てきた…ブロッコリー(蕾部分)、タマネギ、バナナ(皮なし)、アボカド(皮なし)、ナス(皮なし?)
- ・不明、または、何も出てこなかった…マツモ、アジサイの花、メロンの摘果、冷凍ブロッコリー(加熱処理?)

【わかったこと】

- ・こんなに簡単にDNAを取り出せる。
- ・エタノールを注ぐときの量が多かったり、スピードが速かったりすると、液が動いてしまい、失敗になる。
- ・食塩水を作るときだけ、計量するものが必要。あとは、家にあるものや簡単に購入できるもので実験できる。
- ・バナナ、アボカド、マツモ、タマネギは、冷凍後解凍し、ただただで簡単に潰すことができた。潰しにくいものは、時間もかかるし、成功率が低い。

【感想】

- ・以前お子さんが小さいときにDNAを取り出す講座に参加したメンバーが、「こうなったら成功だった」と、その時の動画を見せてくれて、成功の状態が分かった。～ありがとうございました、とっても心強かったです！～
- ・ブロッコリーをすり潰すのとバナナの液をろ過するのが大変だった。
- ・植物を使ってこんな実験ができる、本当にそうなるんだ、と分かり、十分楽しめた。
- ・暑い時期や雨天の日は、外での観察ができないので、つい「中止」としてしまいが、こんな活動もできると感じた。

【今後の活動】

■月に1回、第1日曜日の午前または午後を予定しています。

■外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。

基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。

■8月、2月は、例年お休みしています

■9月 未定 「水草観察⑦」 長浜市付近 9:45～12:30 ごろ

■10月4日(日) 未定 10:00～12:30 ごろ

※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



(10) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

兵庫県立人と自然の博物館で6月20日(土)、21日(日)に行われる日本珪藻学会第47回大会に、影の会長と根来さんの2名が参加してきました。ただし今回は、たんさいぼうの会名義での発表はありませんでした。

会員の安達さんが自宅近くの堅田内湖で大量増殖しているのを発見した(おそらく外来種の) *Sellaphora constricta* の出現報告を、九州諸河川からの報告と併せて論文化し、5月11日に珪藻学会誌 *Diatom* に投稿しました。第一著者以外は、安達さん、根来さんと会員が共著者に名を連ねており、影の会長が最終・責任著者となっています。この論文の査読結果が、7月7日に戻ってきました。査読結果への対応は、少し頑張ればクリアできそうでしたが、その後、影の会長が忙しくなってしまったため、まだ修正に取り掛かれています。

他にも野田沼・曾根沼(彦根市)の珪藻、瀬田公園(大津市)の珪藻など「たんさいぼうの小さな旅」で採集してきた珪藻の報告や、堅田内湖(大津市)、千種川(兵庫県)、黒沢湿原(徳島県)の珪藻研究も、少しずつですが進めています。

「夏の珪藻合宿 in 琵琶湖博物館」で用いるために、交流室の生物顕微鏡を点検したところ、油浸 100× の対物レンズが破損していることが判明しました。ここ 10 年ほどの粗い使用が祟ったようで、トップレンズが傷んでおり、おそらくもう修繕不能です。この対物レンズは 2022 年にも破損し、20 万円あまりをかけて修繕したのですが、もはや同額の修繕費を出すことはできませんし、修繕しても数年で破損する可能性が極めて高くなります。この、多くの研究成果を生み出してきたレンズともお別れです。このレンズは新品だと 40 万円あまりするので、現在の影の会長が持っている研究費では買えません。中古品を私費で購入することを検討していますが、中古でも状態が良いものは 20 万円くらいしますし、何よりも現行機種で使えるレンズなのでほとんど市場に出てきません。良い中古品が出てくるのを根気よく待とうと思います。

【活動予定】

9月までに集まって行う活動の予定はありません。個人活動も、顕微鏡の故障によりたいへん制限されます。



(11) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32 名】

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

今シーズンは、まだ調査したことのない田んぼが多く残る東近江市の名神高速道路八日市インターチェンジ南東側と甲賀市の野洲川鹿深大橋周辺の水田、および、以前からハウネンエビの目撃情報があつた長浜市木之本町と西浅井町の水田を中心に、大型鰓脚類の分布を明らかにする調査を実施しました。

【活動報告】

- ・ 5 月 24 日に、会員 8 名が参加して、東近江市尻無町から大森町にかけての 3 地点でエビ類の分布調査を行いました。種の確定は同定会の結果を待つ必要がありますが、3 地点すべてにおいてハウネンエビの生息を、2 地点でカイエビの生息を確認し、尻無町の水田ではタマカイエビも見つけることができました。一方、この地域でカブトエビ類やトゲカイエビの生息は確認できませんでした。
- ・ 5 月 30 日に、会員 5 名が参加して、甲賀市水口町和野の 3 地点と、甲賀町岩室、土山町徳原、土山町大野のそれぞれ 1 地点で、エビ類の分布調査を行いました。6 地点すべてにおいてカイエビの生息を、土山町大野と水口町和野の 2 地点でハウネンエビの生息を、さらに、水口町和野の 1 地点でトゲカイエビの生息を確認しました。一方、この地域でカブトエビ類やタマカイエビの生息は確認できませんでした。
- ・ 滋賀県内では、2024 年 6 月に調査した長浜市高月町雨森がハウネンエビの生息を確認できた北限でした。本年度は、5 月 24 日に長浜市木之本町千田の 2 筆で会員 1 名が、また、6 月 11 日に西浅井町野坂の 1 筆で別の会員 1 名が、それぞれハウネンエビの生息を確認しました。



- ・ 5 月中旬から 6 月上旬にかけて、日野町、東近江市、野洲市、守山市の水田において会員有志による追加の分布調査を行い、上記 2 回の合同調査とあわせて、これまでに調査したことのない 26 の 3 次メッシュコードに含まれる水田において、新たにエビ類の生息を確認しました。また、最後に調査を行ってから 20 年以上経過している近江八幡市、野洲市、栗東市、草津市に広がる 10 余りのメッシュコードに含まれる水田についても、改めてエビ類の分布調査を実施しました。その結果、4 メッシュで以前に見つかったトゲカイエビを確認できた一方、8 メッシュで以前に見つかったタマカイエビの姿を確認できませんでした。

【活動予定】

8月9日に、琵琶湖博物館実習室1で、本年度に採集したサンプルの同定会を実施する予定です。

(山川 栄樹)



(12) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:中村 久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。(お子さんの様子に合わせて、いつ来ても、いつ帰ってもOKです。)

【活動報告】

■6月の活動 6/17(水)10組(幼児12名、大人11名)

梅雨の間の蒸し暑い日でしたが、多くの親子が集まってくれました。春に植えたサツマイモの葉が大きくなり、この秋は大きなサツマイモを掘るぞ！と期待しています。マダケのタケノコが大きくなり、春のモウソウチクとの違いに驚いたり、新しい絵本にも出ているナナフシモドキを見つけたり、工房の台所の隙間からヒラタクワガタが出てきたりと、たくさんの生き物に触れました。ウチワヤンマが田んぼに立ててある棒に止まって、羽を休めていました。スマホでパシャパシャと写真撮影大会が急遽開催でした。

■7月の活動 7/15(水)8組(幼児12名、大人9名)

暑い暑い夏がやってきました。工房の畑のジャガイモがそろそろ掘り時のよう、みんなで畑へ出掛けてみました。土をスコップで掘ると、ポコポコジャガイモが見つかります！大小いろんなジャガイモを収穫できました。畑を掘りながら、ミミズや小さな幼虫を見て楽しみました。

様々なトンボが飛び、クスノキにはアオスジアゲハの幼虫、田んぼにはオモダカの花が咲いて、リンゴドクガの幼虫や、ジュズダマの花が咲いて、ハラビロカマキリの幼虫がいて、シオヤアブがアオドウガネを捕まえ、アマガエルが枝に隠れていたり、たくさんの生き物に囲まれて、親子が生き物の面白さを楽しみました。

嬉しいお知らせ。新しいちこあその活動メンバーが来てくれました！はしかけに入ったのも「ちこあそに参加したいから！」だそうです、とても嬉しい限りです。早速子ども達やお母さん達とちこあそを楽しんでくださったようです。

■ちこあそが広がっています(子ども園さんの受け入れ) 6/26、6/30

ちこあその新しい絵本を読んでくださった草津市内の子ども園さんが、ちこあその世界を体験したいと希望され、年長さんが来館されました。はしかけメンバーと一緒に、生活実験工房でたっぷり自然を楽しんでもらえました。ちこあその活動が少しずつ広がってきた成果です。

■あたしいちこあその絵本ができました！

半年間をかけて、ちこあその田んぼの1年を楽しめる絵本を製作しました。前回に続いて2作目です。新旧の絵本を楽しんでもらえるようになりました。

3回スタンプがたまると、絵本がもらえます。お家で絵本を読んで、室内でもちこあそを思い出して欲しいとの思いです。ぜひ3回来てください。



6月 ナナフシモドキ



6月 ヒラタクワガタ



6月 ウチワヤンマ



7月 ジャガイモ掘り



7月 工房裏の探検



5月 ヒモワタカイガラムシ

今回のちこあその報告は、代表の池田勝(まっちゃん)が担当しました。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで1か月前から参加予約ができます。8月はお休みです。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
9月	9月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ9月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。
10月	10月21日(水) 10:00-14:00	ちこあそ10月	ルーペでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(13) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 51名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

■ 2026年5月31日(日) 参加者:19名、学芸員:2名

博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。

■ 2026年6月28日(日) 参加者:16名、学芸員:2名

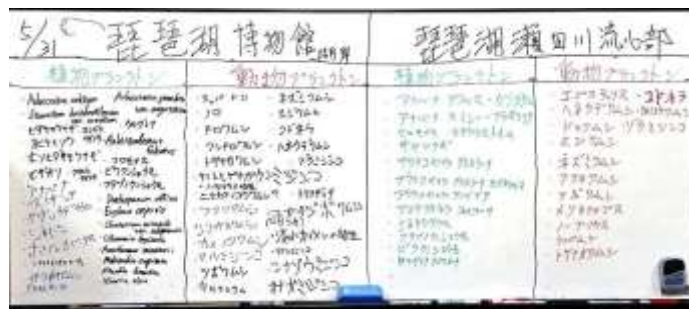
博物館前と瀬田川のプランクトンを観察しました。今回は琵琶湖では非常に珍しいカイエビの幼生が大量に捕れました。連日の雨や台風の影響で周辺の田畑から流れてきたものだと思います。他にも田んぼで多いワムシやホウネンエビの幼生も少し見つけられました。

■ 2026年7月12日(日) 参加者:16名、学芸員:1名

博物館前と瀬田川、西の湖のプランクトンを観察しました。西の湖では多様な Microcystis が居たそうです。いつも活動で見つけた生物をホワイトボードに書き出しているのですが、博物館前のサンプルからはホワイトボードに書き辛い位多くの生物が見つかりました。



5月31日の活動の様子



5月31日の活動の様子



6月28日の活動の様子



トゲカイエビの幼生



6月28日の活動で見つかったプランクトン



7月12日の採集の様子



7月12日の活動の様子



7月12日の活動で見つかったプランクトン



Aulacoseira と付着する Bicosoeca



シマミズウドンゲ



ヌスットオビムシ?

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方ははしかけ代表アドレスまでお問い合わせください。



(14) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員: 桑原 康一

【活動報告】

■6月13日(土) プランクトンを見よう! 参加者 30名

プランクトン博士鈴木学芸員にお越しいただき、びわたんメンバーが朝採集したプランクトンを参加者の方に観察していただき、おゆまる素材でプランクトンの模型を作りました。

プランクトンや顕微鏡の使い方、おゆまるという素材など参加者にとっては初めてのことばかりですが90分の間に対応して模型まで作れてしまうので毎年すごいなあと感じています。

プランクトン博士が、参加者が質問しやすい雰囲気、子どもたちにわかりやすい言葉で伝えていることが良いのかな?と思います。



■7月11日(土) 骨にふれてみよう! 参加者 35名.

ほねほねクラブさんに博士役としてお越しいただき、ほねほねクラブさんに提供していただいたイノシシ、シカ、アナグマ、アライグマ、ネコの骨格標本を参加者の皆さまに触れていただきました。

受付開始時間に定員となりました。受付時間からプログラム開始時間までの30分間も机に並ぶ色々な動物の骨に釘付けで席を離れる参加者はほとんどいませんでした。

プログラム内容は、骨を観察して博士からの挑戦状に答え、お気に入りの骨を1つ選び、紙粘土で模型を作りました。今年は各机にほねほねクラブさんが1人付いていただけたので、参加者もたくさん話しながらほねについてたくさん発見できたのではないのでしょうか。

最後に、ほねほねクラブさんにほね歴推しの骨などをインタビューさせていただきました。好きなことを見つけ、好きを続ける大人の姿を子どもたちに見せられたことが嬉しかったです。





(15) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 28名】

グループ担当職員:松岡 由子、半田 直人

【活動報告】

■5月31日(土) 参加者:4名

タヌキの解剖、カミツキガメの徐肉、イタチの解剖を行いました。

■6月14日(日) 参加者:4名

キジバトの解剖、イタチの解剖、魚の解剖を行いました。

■6月27日(土) 参加者:5名

カミツキガメの徐肉、マングースの解剖、ナマズの解剖、魚の解剖、を行いました。

■7月5日(日) 参加者:5名

カミツキガメの徐肉、マングースの解剖、ナマズの解剖、魚の解剖、次週に行う予定のわくわく探検隊の準備を行いました。



▲活動中に行った魚のスケッチです

■7月11日(土) 参加者:6名

琵琶湖博物館において、わくわく探検隊のプログラム「骨にふれてみよう！」をはしかけの「びわたん」と共催しました。プログラムとしては、まず動物一体分の骨をじっくり観察してもらった後、骨のレプリカをお渡しして、そのレプリカと同じ部位の骨をたくさんある骨の中から探し出してもらい、その後に今まで見てきた骨の中から気に入った骨の一つを選んでいただいて、その骨を紙粘土で作ってもらうというものでした。

ご参加いただいた皆さんが興味深く、骨を観察してくださり、動物ごとに見比べたりと積極的にプログラムに参加いただいている様子がとても印象的でした。

後半のレプリカ作りも、よく観察して特徴をとらえたものを作っていらしゃったので、とても感心してしまいました。

■7月25日(土) 参加者:4名

キジバトの翼標本の制作、タヌキの徐肉、魚類の解剖、ネズミの仮剥製の制作を行いました。

【活動予定】

8月の活動日は9(日)、22(土)を予定しております。

9月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(16) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 9名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■6月21日(日) 参加者: 9名

活動内容:どくだみチンキ作りと植物のぷっくりシール試作(琵琶湖博物館・生活実験工房)

葉草をアルコールに漬けて有効成分を抽出させる「チンキ」。今年度は久しぶりにどくだみでチンキ作りを実施しました。

どくだみは、6月の下旬ぐらいが一番チンキ作りに適していますが、担当メンバーの都合で中旬すぎとなってしまいました。

みんなで生活実験工房の周りのどくだみを採取してチンキを作りました。どくだみは、葉っぱをきれいに洗って、乾かし、残りの水分をキッチンペーパーでふき取ってから、煮沸消毒し瓶に詰めます。そこに度数が40度前後のアルコールを注ぎます。手に入りやすいホワイトリカーでよく作られることがありますが、今回は米焼酎で作ってみました。

どくだみチンキは2カ月ぐらい漬けてから使えます。精製水などで薄めてどくだみ化粧水にしたり、お風呂に入れて入浴剤として活用します。何年か前に漬けておいたどくだみチンキがあったので、手作り化粧水を作ってみました。好きな香りのエッセンシャルオイル(アロマテラピーで使う精油)を加えて、オリジナルの化粧水が出来上がりました。



琵琶湖博物館では、八重咲きのどくだみを観察することが出来ます。毎年、可憐な姿を見せてくれる八重咲きのどくだみをとても楽しみにしています。初めて活動に参加した新メンバーもいたので、一緒に八重のどくだみを観察することができて良かったです。

午後からは、びわ博フェスのワークショップで予定している「植物のぷっくりシール」を試作しました。

これからびわ博フェスに向けて、メンバーには押し花を作ってもらいます。

お子さん向けのワークショップとして考えていましたが、試作してみた結果、大人も楽しめるワークショップになりそうです。



【活動予定】

・8月8日(土)10:00~15:00 藍の生葉そめ体験(生活実験工房)



(17) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 23名】

グループ担当職員:今田 舜介

【活動報告】

■4月29日(土)10時半~15時 参加者:7名 高島市マキノ町

高島市マキノ町で昆虫採集・観察会を実施しました。天気はスタート時点で小雨がぱらつく時間帯もありましたが、それも短く何とか解散するまで降らずに済みました。思い思いに採集しながら峠を目指し、峠には昼過ぎに到着し昼食後、入口の広場に向かって下山して行きました。目的のコリクワガタは何とか1頭確認でき、ほっとしました。



■5月16日(土)18時半~22時 参加者:6名 長浜市南浜町

当日の参加は6名と少なかったのですが、ここでの灯火のねらいであったムラサキシヤチホコが飛来しました。この蛾は枯れ葉に擬態していることで有名で、それも丸まった枯れ葉なのです。いつかは会員の皆さんに見てもらいたい虫のひとつでした。他にコクワガタ、クルマハバチやヒオドシチョウの幼虫なども見つかりました。



■6月13日(土)15時半~22時半 参加者:10名 東近江市政所町

滋賀県内でもかなり特異な昆虫が生息する地域での灯火を行いました。オオキイロコガネ、コブナシコブスジコガネなど灯火に飛来します。他の鈴鹿山系での灯火では見られません。たいへん興味深いところです。



また、「虫架け通信」92号、93号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

これからも1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)



(18) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■5月23日(土) 河辺いきものの森観察会 参加者(会員)5名 (博物館職員)林

観察会当日は雨が心配されましたが曇りで雨には遭わずに終了する事が出来ました。

観察出来た植物は以下です。

シラキ(雄花 雌花)・カジノキ(花)・テイカカズラ(花)・クロガネモチ(果実)・クマノミズキ(蕾)・ジュズスゲ・ホタルブクロ・ヤマハゼ(花)・ゴンズイ・ウツギ(花)・ツルウメ・モドキ・ニシキギ・ハリギリ(幼木)別名センノキ・ヤマコウバシ・イボタノキ(花)・クチナシグサ(果実)・ホウチャクソウ・カゴノキ・ガマズミ・カキノキ(花)・イヌザンショウ・ミソナオシ・オトギリソウ・オオバコ(花)・バイカモ・ヤブジラミ(花)・バイカモ・カゴノキ 苔類(エゾスナゴケ・コツボコケ)

昆虫 ジョウカイボン(見掛けはカミキリムシに似るが、甲虫としては全体に柔らかい虫で肉食でアブラムシや小さなイモムシなど捕食する益虫に分類される)

■6月13日(土) 研究交流室 参加者(会員)6名

(1)フォレストマスター夏号を館内に設置した。

(2)11月開催びわ博フェスについての話し合い

※内容は例年通り、ポスター展示と森のウォークラリーを実施

(3)屋外説明版の改修(看板プロジェクト)

前回の森の看板調査から大きく3つの活動を進めていきたい。

※鉄製看板の内容変更

※樹名板(黒看板)の再調査

※森の探検マップの見直し

今後、看板の内容変更と共にどの様にすれば太古の森や樹冠トレイルに来館者を誘導出来るか。正面玄関にポスター展示、森人のホームページにフウくんカエデちゃんを載せてみては？など色々と意見が出ました。

■6月27日(土)日吉大社観察会を予定していたが雨天の為中止

■7月11日(土) 研究交流室 参加者(会員)6名、(博物館職員)林

最初にびわたん担当者のIさんが来られ、例年森人がお手伝いしている来年度のびわたん「春の草花」をバージョンアップするため話し合い。

今年はテーマに沿った色、形の植物を屋外で探して4マスのビンゴカードを完成させる案など、森人からも他に良いアイデアがあれば提案していく事になりました。

(1)看板プロジェクト

●鉄製看板について

・鉄製看板横に付いているアクリル板が外せるのか林さんに確認してもらう。

・「森の春夏秋冬に見られる植物や動物」案内板を作り替える。

●樹銘板(黒看板)が古くなったり、現実とそぐわないものになっていたりするので、新しい樹銘板にする。

ただし看板の調査、撤去作業は森の作業がしやすい冬の時期まで保留とする。

●森の探検マップを今後どうするか？

・地図に樹冠トレイルが記載されていないので載せる。

・マップ内の7枚のパネルを8枚に増やす。追加した1枚は「樹冠トレイル」の内容とする。

(2)フォレストマスター秋号の内容検討

・現在、展示中のフォレストマスター夏号のドクダミの花の問題をユズリハのオブジェの問題に変更。

・秋号は2025年の内容を2問変更して2026年の秋号とする。

【今後の予定】

次回7月25日には看板プロジェクトの案内板に載せる季節の花や動物を考えておく。

次回以降、意見を出し合い種類が決まれば、Fさんのファイルの写真から選び出す。

沢山の写真から選び出すのには時間が掛かりそうです。

■7月25日(土)フォレストマスター秋号の内容検討など

■8月8日(土)は夏季休み

■8月22日(土)看板プロジェクト続き



(19) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員:大塚 泰介

【活動報告】

会員の鎌田直弘さん(中3)が、日本珪藻学会 47 回大会(兵庫県立人と自然の博物館、2026 年6月 20~21 日)で、以下の発表をしてきました。ただし「無所属」としての発表で、「琵琶湖梁山泊」名義ではありません。

鎌田 直弘:ミズワタクチビルケイソウの被殻上の胞紋列における「珪藻文字」の解読の試み

革新的な内容でした。ミズワタクチビルケイソウの条線を構成する胞紋は多様な形状を呈し、一見して文字や記号に似ています。このことを、佐藤晋也氏(福井県立大学教授)が 2024 年の日本珪藻学会でネタにし、AI に解読させるという怪挙(誤字にあらざる)をなしたとげました。これを真に受けた鎌田さんは、ミズワタクチビルケイソウの胞紋の配列を「珪藻文字」と呼称し、言語学で用いられるものと同様の方法でパターンの分析を試みました。それぞれの文字の出現頻度を Zipf モデルへの近似によって解析し、また殻の中心部から遠ざかるにつれて文字が単純化することを、フラクタル次元を用いて論証しました。…これ以上は話が複雑になるので割愛しますが、もちろんこんな研究方法をアドバイスできる大人はいません。彼は AI に研究方法を相談しながら、自力でこの研究をやり遂げたのです。

4月に結成された「花の中三トリオ」も、高校受験が近づいてきたのでいったん解散です。彼(女)らが受験を終えて戻ってくるまで、またしばらく休業です。

【活動予定】

琵琶湖梁山泊では、引き続き個人活動を継続するとともに、新規会員を大募集します。他のはしかけグループに所属して研究を進めている中高生の諸君、同年代の仲間たちと研究を進めてみませんか？ 特に「びわ博子ども若者研究発表交流会」で発表した皆さんや琵琶湖トラストなどの「ジュニアドクター育成塾」を卒業した高校生、研究が進展しすぎて先生の手にも負えなくなった中高部活の集団参加も歓迎します。5～6月のはしかけ登録講座ではしかけ会員になった中高生の皆さん、はしかけ代表アドレスにご連絡を。集え梁山泊へ！



(20) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】

グループ担当職員:金尾 滋史

【活動報告】

■ 今のところ具体的な活動は進めていませんが、びわ博フェスでの活動実現に向けて協議を進めています。

【活動予定】

■ コロナ禍以前と同じような活動は進められない状況が続いていますが、とりあえずは、一般来館者の方々を対象に琵琶湖に関わる科学実験を実施するという活動を軸に展開していく方向を探っています。

(戸田 孝)



(21) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:楊 平

【活動報告】

■ 令和8年4月9日(木) 9:00-12:00 晴 参加者 5名

1 活動先: 東近江市中岸本町内 五個荘梁瀬町

2 調査目的と結果

① 調査目的

東近江市(旧湖東町)中岸本町の歴史と現状について、現地を調査し、古来から伝わる灌漑水利「井ゆ」の実態、愛知川流域の河岸段丘、地域の工場進出状況、永源寺ダム建設で水没した集落の移住地の現状を確認することが目的である。

加えて、愛知川の特色調査として下流部の五個荘梁瀬町の国道8号線御幸橋付近の水量、水路の現地調査も実施した。

② 調査結果

東近江市(旧湖東町)中岸本町は、北は池庄町、東は愛東地区梅林町と上岸本町、南は八日市地区神田町、外町、西から北は下岸本町に接する 63.2ha の町域で、集落を県道 216 号雨降野今在家八日市線が通り抜けている。中岸本の北東方向の約半分は河岸段丘上部で林になっており、現在はパナソニックホームズの工場敷地となっている。その林の北東端池庄領や梅林領に近い所にも田圃があり、集落からはかなり離れている。愛知川の本流が集落の西側を北東方向に流れており、集落内には黒内井(こくちゆ)が流れていて、中岸本はその両方の井から受水していた。昭和 30 年代末には、永源寺ダムの建設に伴い、水没の対象となった永源寺の九居瀬(くいぜ)地区から8戸と八幡神社が町域の北部へ移住した歴史も残る。昭和 30 年代以降、町域北部の松林が開発され、上述のパナソニックホームズ湖東工場が建設された。

集落を歩いてみると、県道 216 号線で河桁御河辺神社を過ぎて愛知川の御河辺橋を渡るとすぐに中岸本町に入る。灌漑水路の黒内井(こくちゆ)が町内を突きぬけている。訪問時は農閑期であり水の供給はなく、干しあがっていた。「井」の左右側壁は丸石を積み上げた石垣であり、当地域の特徴である、河原の丸石の有効活用である。家屋の基礎石、石垣にも多用されている。現在のパナソニックホームズ正門前道路の対面に一列に並ぶ集落があり、昭和 30 年代末に永源寺ダム建設に伴う水没の対象となった九居瀬からの移住者8戸と八幡神社があった。付近には小泉製麻(株)の大きな工場もあり、地域の農業従事者が勤めるようになり、農業兼業化や機械化が急速に進んだようだ。現に各戸の農業倉庫には、大型機械が多数収納されていた。

愛知川の特色調査として、下流部国道8号線御幸橋付近の様子も調査した結果として、この付近は愛知川下流部で10km程度で琵琶湖となる。渇水期であり愛知川本流の流れはなく、干しあがっているが、少し上流部の近江鉄道橋付近では伏流水が湧き上がっていて大きな水たまりがあった。湧き上がっている場所は確認しづらいが、水が湧き出している状況は確認できた。降雨時は、川幅の草木が大きく倒れている状況から激しい流れが想像できる。



□県道 216 号線沿いの黒内井



□中岸本町内の黒内井①



□中岸本町内の黒内井 ②



□御幸橋から下流部琵琶湖方面



□御幸橋上流の愛知川本流



□近江鉄道橋付近の様子

■ 令和8年5月 27 日(水) 9:00-12:00 晴 参加者 5名

1 活動先: 東近江市読合堂町、今町

2 調査内容と結果

① 調査目的

東近江市(旧湖東町)読合堂町の歴史と現状について現地調査をし、現地の農業用水の実態と集落内で現在の湧出している出湯を確認する。また、前回同様、愛知川下流域である、今町付近の県道2号線八幡橋付近の川幅、水量、流れ方、河原の石の状況を現地調査した。

② 調査結果

東近江市(旧湖東町)読合堂町は、北は中里町、東は愛東地区百済寺本町、北坂町、南と西は北花沢町に接する 59.6ha の町域である。集落内を県道中里山上日野線(高野街道)が通っていたが、現在は北側に付け替えられており、百済寺本町との境を名神高速道路が南北に走っている。また、古い山街道(ジュンケイ道)から分岐した道も通っている。集落の東端には、小字「金付出湯」があり、この辺りから地下水が湧き出していた。(詳細は下記参照願う)

集落内を歩くと愛知川第一幹線水路の分水塔・読合堂 1 があり、訪問時は田植え時期でもあり集落内の水田に向けて勢いよく通水されていた。また、集落内名神高速の右側に小さな整備された公園があり、公園内の水路のコンクリートブロックの隅から湧水がしみだしていた。これが「出湯」と呼ばれ、昔は生活用水や飲料水として利用されていたが、土地改良工事及び下水道工事以降、水量が大幅に減退して、現在の状態となっている。湧水場所付近には必ずそれを祀る神社があるが、こちらにも出湯を少し下がったところに八阪神社が鎮座していた。現在の神社は小規模のつくりであるが、昔の本堂の瓦である「獅子口瓦」が飾られていた。集落の入り口には「出湯と半鐘の郷 読合堂」の看板があった

今回も愛知川の特徴探しの旅として、愛知川下流部の今町の県道2号線八幡橋付近の現地調査結果として、まず梅雨前の渇水期であり、川幅のごく狭い流域を左右に蛇行しながら流れはあった。おそらくこの付近も、大半が地下水脈となり川床の地下を流れていると思われる。琵琶湖まであと数キロの地点であり、河原の丸石も小粒が大半であった。



□愛知川第一幹線水路



□出湯の石碑



□出湯湧水現状



□旧本堂の獅子口瓦



□出湯と半鐘の郷モニュメント



□八幡橋から下流を望む

執筆者 小篠 伸二



(22) 内湖を知ろう会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

【活動報告】

■2026 年6月 13 日(土) 10:00～11:30 「フェスとも事前説明会」に出席

場所: 琵琶湖博物館会議室

参加者: 1人

<活動内容>

「びわ博フェス 2026」の開催にあたり、出展者(「フェスとも出展部」)の募集があり、グループ代表の服部が事前説明会に参加した。その内容を受け、私たち「内湖を知ろう会」は【ステージ発表】と【ポスター発表】への参加申請を行った。今後、11 月 14 日・15 日の開催に向け、資料等の準備を進める。

■2026 年6月 24 日(月) 10:00～15:30 現地調査

場所: 乙女ヶ池、松の木内湖、五反田沼(以上、高島市)

参加者: 会員3人、本グループ入会希望者(はしかけ制度登録済み)1人

<活動概要>

午前 10 時に「米プラザ」に集合し、まず乙女ヶ池に向かった。雨を心配していたが、当日は陽が差すことはなかったものの、幸い調査中、雨に降られることはなかった。乙女ヶ池を調査し、昼食後、松の木内湖と五反田沼を訪問調査した。調査内容は、主にその地理的(地形的)特徴を観察し、加えて「透視度」を計測した。参加者が用意していた時代別の地図が、現地の地形の移り変わりを理解するのに役立った。我々が内湖を観察するにあたり、新たな視点であり、興味深い方法であった。

なお、乙女ヶ池については、湖を一周踏査できたが、松の木内湖については、時間の都合で、ざっと一部を見て回るにとどめざるを得なかった。五反田沼は面積が小さく周回できたがやはり詳細には観察できなかった。

“乙女ヶ池”

1 JR 湖西線近江高島駅からほど近いところに位置し、公園整備されていた。内湖の中央には木の橋がジグザグに東西方向に架けられており、内湖を上から見下ろすことができるようになっていた。太鼓橋と水平な橋桁の部分を交互に組み合わせたもので、美しいものであった。「乙女ヶ池」の名にふさわしい架橋で、観光のために一役買っていることに違いない(ほかに、彦根市の曾根沼内湖にも橋が架かっているとのことである)。

2 湖岸に設置されていた案内板やびわ湖高島観光協会の HP*によると、①万葉の時代、「香取の海」と呼ばれた乙女ヶ池一帯は、山の麓まで琵琶湖の入り江になって、②その後は、大溝城の外堀で、恵美押勝が挙兵に失敗し、高島郡三尾崎で捕らえられ、「勝野の鬼江」で斬罪されたと伝えられる地で、壬申の乱で落城したと伝えられる三尾の城も背後の山中にあったと言われ、幾多の歴史を秘め湖面にロマンをただよわせている、とあった。

*公益社団法人びわ湖高島観光協会 web サイト「びわ湖高島観光ガイド」

https://takashima-kanko.jp/spot/2018/06/post_154.html [2026 年 8 月 6 日最終閲覧]



乙女ヶ池

3 たしかに、古い時代の地図を見ると、現在のJR湖西線の高架あたり(乙女ヶ池の西に広がる水田の西端)まで内湖(当該地図の作成時点では、「琵琶湖の入り江」は「内湖」になっている。)が広がっているように読み、その地点まで行って確かめたところ、琵琶湖の湖岸線を推測させる地形となっていた。(このことについて、後日、高島市の文化財課にお尋ねしたところ、確かなことは分からない、ということであった。したがって、我々の地図に基づく推測は、まさに推測の域を出ない、としなければならない。)

4 また、水城である大溝城の天守台跡の位置を見れば、乙女ヶ池が外堀として利用されていたことは容易に想像できる。

5 内湖の湖岸は土羽又は植生帯である。特にヨシ刈りやヨシ焼きの痕跡はなかったが、草刈りは施されているようだ。ゴミは少し見られたが、公園施設として維持管理は一応しているようにうかがえた。

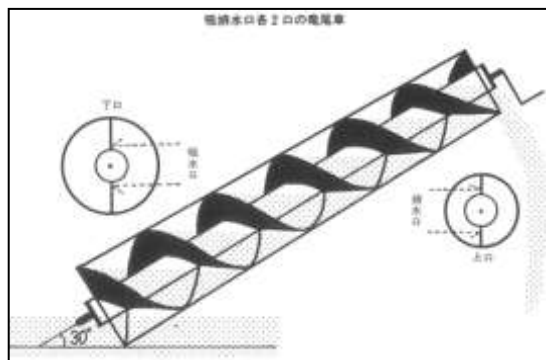
6 淡水真珠の養殖が試みられたこともあったようだが(昭和30年代)、その痕跡は確認できなかった。(ただ、木の杭が内湖内に並んで立っていたので、これはイケチョウガイを吊るす養殖棚を取り付けるためのものであるかも知れない。)

7 内湖の利水状況に関しては、平成25年に滋賀県が策定した「内湖再生全体ビジョン」の資料33においては、「農業・消防用水など」に利用していることとなっているが、今回の観察においては、乙女ヶ池周囲の水田の灌漑用水として利用している様子はいかががわからなかった。(この点に関しても、同文化財課に尋ねたところ、かつては、『龍尾車』という仕掛けを使って揚水していたそうだが、現在では農業用水としては使われていない、とのことであった。)すぐ近くには集落があるので、消防用水として利用されることは十分に想像できた。



かつては入り江の汀線であったのではないかと推測したところ(赤線)

出典: 国土地理院ウェブサイト(<https://maps.gsi.go.jp/#14/>) (必要事項を描画した)



龍尾車の仕組み

出典: 田村博望『揚水具 龍尾車(文化財教室シリーズ[116])』財団法人滋賀県文化財保護協会、1990年、3頁

8 2本ある流出河川のうち大溝港に流出する川には、水位保持用の「起伏堰」が設置されていた。

9 内湖自体の水の色は緑茶色。無臭。10時40分ごろ計測した透視度は24度(24cm)であった。

10 集水域は山林や水田等であり、その中を流れる流入水路は素掘りであった。中干しの時期で水田から農業排水が流れ出ていないせいか、透視度は内湖自体のそれよりも高く10時55分ごろの値で63度(63cm)であった。



手製の透視度計で計測(乙女ヶ池にて)

11 水鳥は確認できなかった。

12 全体として、この内湖一帯は興味深い地域である。乙女ヶ池そのものと大溝城天守台跡の野面積みの石垣を中心に、観光地あるいは歴史散策コースとしてのポテンシャルはあるのではないだろうか。近くには「鵜川四十八体石仏群」や「白髭神社」などもある。

“松の木内湖”

1 湖岸は土羽又は植生帯で、自然な佇まいを見せていた。

2 周囲は集落と水田であった。



3 湖上では木船が一艘浮かんでおり、1人の男性が作業をしていた。尋ねるとウナギを採っているとのこと、長い筒状のものを水から引き揚げ、中に獲物が入っているか確かめていた。多い時で、1日8匹というから生業にはならないだろう。船は竹竿で操っていた。

4 水鳥を現認したが、その種を確定できなかった。(「カワウ」であろう、と推定する者もいた。)

ウナギ獲りの筒状の仕掛けを確認している(松の木内湖にて)

“五反田沼”

- 1 ごどんまりとした内湖(1.2ha)で公園として整備されている。四阿も設けられており、のんびりと散策するにはうってつけである。ただ、アクセスの便利さからいえば、近隣集落の人々が憩うことを想定しているようだ。
- 2 松の木内湖より内陸部にあり、琵琶湖との繋がりが分からない。「内湖再生全体ビジョン」の表2.2.1では、琵琶湖の魚が遡上しているのであるから、狭い水路で琵琶湖とつながっているのであろう。確認はできなかった。
- 3 湖岸は、土羽又は植生帯で、青々としたヨシも繁茂していた。湛える水は、農業用水に利用されているようで、湖岸には取水口が何カ所か設置されていた。



五反田沼はごどんまりとしている



五反田沼には取水口が設置されている(農業用水として利用)



訪問した内湖の位置図

出典:国土地理院ウェブサイト(<https://maps.gsi.go.jp/#14/>) (必要事項を描画した)

【活動予定】

- 日時: 2026年7月31日(金) 10:00~12:00
- 場所: 琵琶湖博物館応接室
- 内容: ミーティング
 - ① びわ博フェス 2026 への取組みについて
 - ② 次回の現地調査について
 - ③ その他

(文責: 服部 敏之)

3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(8月～9月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページの「イベント情報」で詳細をご確認ください。

⇒ <https://www.biawahaku.jp/event/observe/>

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
企画展示関連講座 魚の耳石を観察しよう！	魚の耳石を見たことがありますか？いろいろな魚の耳石を観察したり、自分でも耳石を取り出して、耳石の機能やどんな研究に使われているかを勉強してみましょう！	2026 年 8 月 22 日	土	10 時 00 分 ～ 12 時 00 分	琵琶湖博物館 実習室 2	※定員 15 名(多数の場合は抽選) ※参加費 無料 ※小学生以上(小学生は保護者同伴)
豊公園の湖岸で水草を観察しよう！	長浜の豊公園の湖岸で、浅瀬に入って水草を観察しましょう。公園の一部ですが、琵琶湖の多様な水草が何種類もはえています。押し葉標本の作り方も伝授します。	2026 年 8 月 22 日	土	10 時 00 分 ～ 12 時 00 分 (予定)	豊公園湖岸 (長浜市公園町)	※定員 10 名(多数の場合は抽選) ※参加費 100 円 ※小学生以上(小学生は保護者同伴)※大雨・高水位の時は中止
湖探検 琵琶湖に入って生き物をさがそう	自然豊かな琵琶湖北湖の湖岸の小さな島に船で渡り、島の周辺の湖の中を歩いて島々を渡りながら、鳥や魚、貝類、水草などの生き物を観察します。	2026 年 8 月 30 日	日	10 時 00 分 ～ 15 時 00 分	琵琶湖湖岸 (長浜市湖北町延勝寺・海老江)	※定員 20 名(多数の場合は抽選) ※参加費 1700 円 ※小学生以上(小学生は保護者同伴) ※大雨・高水位の時は中止
ライト版 里山体験教室	自然観察や遊び、森林整備を体験する里山体験教室。普段は実際の里山へ飛び出しますが、「お試しで体験したい」、「博物館なら来やすい」というような方に向けてライト版の教室を開催します！	2026 年 8 月 30 日	日	10 時 00 分 ～ 12 時 00 分	生活実験工房 (屋外の森林を含む)	※定員 20 名(多数の場合は抽選) ※参加費 無料 ※どなたでも(小学生以下は保護者同伴) ※天候等により中止の可能性あり
生活実験工房 田んぼ体験 稲刈り・ハサ掛け(1)	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、稲刈り・ハサ掛け作業を体験して頂きます。	2026 年 9 月 6 日	日	10 時 30 分 ～ 12 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 20 名(多数の場合は抽選) ※参加費 無料 ※小学生以上(小学生は保護者同伴) ※雨天中止
【わくわく探検隊】 日光で写真を撮ろう ～水草アート～	水草の形・種類・生態などを学び、青写真の作品作りを通じて水草の形をとらえよう！	2026 年 9 月 12 日	土	13 時 30 分 ～ 15 時 00 分	琵琶湖博物館 実習室2	※定員 15 名(先着、当日受付) ※参加費 無料 ※小学4年生以下は保護者同伴 ※雨天決行

ちこあそ・9月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森の中でゆっく りと過ごしながら、五感で 触れて、楽しんで、自然 の面白さを体験する遊び 場です。 9月は、トンボやバッタ、 捕まえられるかな？	2026 年 9 月 16 日	水	10 時 00 分 ～ 14 時 00 分	琵琶湖博物館 生活実験工房	※定員 10 組(先 着、要事前申込) ※参加費 無料 ※未就学のお子 さまと保護者の方 (保護者同伴)
--------------------------------	--	--------------------	---	-----------------------------	------------------	---

4. 学芸職員・特別研究員による研究セミナー(8月～9月)

琵琶湖博物館では、毎月第3金曜日に学芸職員・特別研究員による研究セミナーを開催しています。最新の研究成果を一般向けにわかりやすく紹介する講座で、琵琶湖の自然・文化・歴史を深く知ることができ、専門家と直接交流できる貴重な機会です。興味のあるテーマがあれば、どうぞお気軽にご参加ください。

※発表者・タイトルが変更される場合がありますので、必ず事前に琵琶湖博物館ホームページの「イベント情報(セミナー)」で詳細をご確認ください。⇒ <https://www.biawahaku.jp/event/seminar/>

タイトル	内容	期日	時間	場所
2026 年度 第5回 研究セミナー	発表者1 佐藤 華音(動物生態学) 13:15～13:55 演 題「湖岸水鳥群集の採餌場所の時空間変化と生態学的機能の検討」 発表者2 北野 智也(歴史学(環境史)) 13:55～14:35 演 題「古文書からみる葭問屋」 発表者3 藤岡 康弘(魚類生物学) 14:35～15:15 演 題「琵琶湖のホンモロコにおける体長の年変動と成熟サイズ」	2026 年8月 21 日(金)	13 時 15 分 ～ 15 時 15 分	琵琶湖博物館 セミナー室
2026 年度 第6回 研究セミナー	発表者1 川瀬 成吾(水族保全学) 13:15～13:55 演 題「200 年前シーボルトは日本のどこで淡水魚を収集したのか」 発表者2 西田 謙二[特別研究員] 13:55～14:35 演 題「滋賀県のイヌザクラの生態と分布」 発表者3 細谷 和海[特別研究員] 14:35～15:15 演 題「未定」	2026 年9月 18 日(金)	13 時 15 分 ～ 15 時 15 分	琵琶湖博物館 セミナー室

5. 生活実験工房からのお知らせ

7 月 26 日に、田んぼ体験イベント「昆虫採集」を開催しました。連日 35℃を超える猛暑が続いていましたが、当日の午前中は雲が広がり、気温もいくらか落ち着き、ほっとひと安心。それでも大人は汗だくになるほどの蒸し暑さでしたが、子どもたちは元気いっぱい、バッタやチョウ、トンボを追いかけながら、田んぼや樹幹トレイルの周りを駆け回っていました。

今回のイベントも、「虫架け」の皆さまに力強いサポートをいただきました。アンケートでは「どんな昆虫でも名前を覚えてくれた」「説明が詳しくてわかりやすかった」など嬉しい声が多く寄せられ、参加者の皆さんに楽しんでいただけた様子が見え、うかがえました。今後も安全に配慮しつつ、より満足度の高い体験となるよう工夫を重ねてまいります。



▲危険な昆虫について説明しています

次回の田んぼ体験イベントは、9月・10月に予定している稲刈り・はさ掛けです。暑さの影響で稲の生育がやや心配されましたが、田んぼにはしっかりと稲穂が出てきています。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

【今後のイベント予定】

生活実験工房では、今後も稲刈りやわら細工といった田んぼに関連するイベントを予定しています。

9月6日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)

10月11日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)

12月19日(土) しめ縄づくり

2月7日(日) わら細工

※事前予約が必要です。ご興味のある方は、琵琶湖博物館ホームページのイベント情報でご確認のうえ、是非お申し込みください。

⇒ https://www.biwahaku.jp/event/2026/07/post_1525.html



▲「カブトムシがいる！」

担当:環境学習・交流係

6. その他の事項

(1) はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニュースレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスについては、はしかけ登録講座の際にお渡しした資料をご覧ください。事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

(2) 名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りします。

(3) はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、必ず会員証を持参してください。会員証を携帯せずに活動することはできません。

(4) はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当職員(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。